

平成23年5月25日

公開ワークショップ

「瀬戸内海地域における地域資源（文化・創造活動）を活用した都市間連携と地域活性化」 を考えるためのワークショップ

【第2回 エアラインとフェリー】

グローバル化とポスト工業化の進展は、社会・文化・経済の諸活動を大都市に集積させる一方で、地方の都市・農村で経済を縮小させている。この状況の中、地方の都市・農村で人々が心豊かに暮らしていくために、大都市と共存できる独自の社会経済のあり方を新たに検討していく必要があります。香川大学大学院地域マネジメント研究科（亀山研究室）では、瀬戸内海地域の都市間連携という構想のもと、個々の都市の取り組みを紹介し、情報の共有を図るとともに、文化・創造活動を軸とした諸事業のアウトリーチ活動の「場」を構築していくためにワークショップを開催いたします。

◆開催日時：2011年6月2日（木）

◆開催場所：香川大学 幸町（法学部・経済学部）キャンパス 又信記念館1階 特別講義室

◆第2回 ワークショップの方針と議題

【方針】文化・創造活動のビジネス展開は、ローカル展開による一定の消費とグローバル展開による一定の投資によって可能となる。地域の内外から消費と投資を惹き付けるためには、観光や旅行によって現地での経験に基づく評価を積み上げていく必要がある。瀬戸内海地域において一定の距離のある都市が連携し、エアラインとフェリーを組み合わせ、当該地域の文化・創造活動を体験し、新しい観光や旅行（ビジネス）ができるかどうかを議論していく。

【議題】東日本大震災に端を発する福島第一原子力発電所の事故は、日本各地で外国人観光客の来日に影を落としている。香川県でも、3月27日に就航を予定していた春秋航空の上海—高松便が延期となった。一方、九州の各県はアジアからの観光客の誘致で実績を残してきたが、さらなる誘致を巡り近隣の都市間で競争が激化している。春秋航空の就航は、瀬戸内海（あるいは、西日本）地域の旅客に新しい流動を生じさせる可能性がある。今回は、インバウンドとアウトバウンドの双方の視点から、四国と九州、エアラインとフェリーをお互いに交差させて議論していく。

◆プログラム（案）

■開会挨拶（18：30～18：35）：板倉宏昭（香川大学大学院地域マネジメント研究科長）

■趣旨説明（18：35～18：50）：亀山嘉大（香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授）

■事例報告（18：50～19：30）とパネルディスカッション（19：30～20：15）

報告／パネリスト（50音順）：加藤琢二（ジャンボフェリー株式会社 代表取締役 会長）

久留文香（阪九フェリー株式会社 国際担当チーフ）

田代昇三（北九州市港湾空港局空港企画室係長）

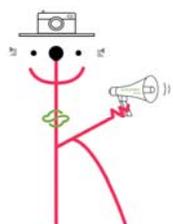
山本 泰（香川県交通政策部交通政策課長）

コーディネーター

：亀山嘉大（香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授）

■次回予告（20：15～20：20）：岩橋培樹（琉球大学法文学部准教授）

◇主催：香川大学大学院地域マネジメント研究科



➤ お申し込み、お問い合わせ先

・お申し込みは、参加者名、人数をメールにて、gsm-office@gsm.kagawa-u.ac.jp 宛てお送り下さい。

・お問い合わせの電話番号：087-832-1955 メールでのお問い合わせも受付ております。

香川大学大学院地域マネジメント研究科 担当：吉田、中山、長尾

【香川大学幸町キャンパス構内図】



幸町南キャンパス

特別講義室
(1階)

幸町北キャンパス

事務局長